

SHINE 通信

2018年1月号

J-SHINE英語上級指導者
外国語活動専門支援員として静岡県島田市で勤務
島田市国際交流協会リッチモンド委員会Sub-manager



阿南千華さん

◆J-SHINE資格、上級指導者資格取得のきっかけ

大学では英米文学を専攻し、イギリス文学の翻訳を仕事にしたいと思っていました。大学院進学を考えていましたが、卒業と同時に結婚したため断念しました。結婚後は精密機器メーカーで取扱説明書の翻訳業務に就きましたが、妊娠出産のため退職。英語力を維持、向上させるため英会話のAEONに通い、さらに住んでいる市の国際交流協会主催の英語講座を受講しました。AEONでJ-SHINE資格を知り、子供とかかわる仕事に興味があったため取得に挑戦。取得後は国際交流協会主催の子どもの英会話教室の講師や成人向け英語講座のアシスタントなどを経験しています。

国際交流協会は、さまざまな企業、人と出会う機会があります。協会は姉妹都市ごと分かれていますのですが、私が活動しているリッチモンド委員会では、主な活動として姉妹都市のアメリカ・カリフォルニア州リッチモンド市から毎年親善使節をヶ月受け入れ、学校訪問や企業訪問を手配しています。使節は市内でホームステイをするので、我が家もこれまで3人の使節を受け入れてきました。

4年前、学校訪問の通訳として使節に同行したときに、ある小学校で研究授業が外国語活動になり、ボランティアの支援員を探している、とお話をいただき、支援員として5時間ほど授業に参加しました。研究授業の際には市内の先生方に加え、教育委員会の方もいらっしやり、外国語活動専門の支援員として登録しては、というお話をいただきました。登録後の新年度より市内複数の小学校で支援員として勤務しています。同じ授業内容を提供するにしても、そのクラスに応じてやり方変えていく臨機応変さが必要であり、常に謙虚な気持ちをもって、担任をたてて授業を進めていきます。

授業後の一言二言は、必ずクラスの児童を褒めることを念頭にいれております。我が子を褒められることが担任が一番嬉し

いのです。JTEでないと進められない専門的な内容もたくさんありますので、そこはしっかりこちらが舵を取ります。つまり、役割分担を明確にしておくことが大事なのです。

学校という教育現場では、しばしば校内研究や教育会の研究授業も一緒に行う機会があります。担任と検討会を重ね教材を準備するなどの時間を共有して、研究授業を成し遂げたときの満足度は、専科として一人で教壇に立つものとはまた違ったものがあります。大変なことは分担し、嬉しいことは共に味わうのです。

担任は本当に児童をよく見ており児童を愛しているのだと側で感じますし、英語への取り組みも一生懸命です。JTEの私は、担任の秘めた力を更に伸ばすお手伝い如果能たら・と常に考えるようにしています。

JTEのやりがいはそういうところにもあるということが、最近よくわかります。この仕事は、まさに、「人間コミュニケーション能力」が問われる仕事です。学校と自分、担任と自分、そして児童と自分という関係を上手に保つことがTTのうまいく秘訣ではないでしょうか。

児童が英語を大好きになり、授業の最後に「もう終わり？」と言う言葉を聞いたときには、「ああ、この仕事をしていてよかった。」と感じます。毎回そのような嬉しい反応を目にすることができるからこそ、この仕事に愛着を感じ、一杯取り組むことができます。

◆現在の活動状況

毎年複数の小学校で5、6年生の外国語活動を担当しています。多い年で6校、今年度は4校の担当で、外国語活動全35時間のうち20時間前後支援に入り、時給制で給料をいただいています。教育委員会の担当の方が学校と相談して授業を調整してくださるので、月曜はA小学校、火曜はB小学校、

というような形で勤務することができています。小学生の子供をもつ私にとって、長期休暇中の勤務がなく、子供の下校と同じ時間に帰宅できる仕事はとてもありがたいです。

授業は、文部科学省の Hi, Friends! 年間指導計画と学習指導案を参考に、担任とのチームティーチングで行います。35 時間の内、私が入らない時間は担任の先生が学習指導案を参考に授業を行います。私が入る時間でも T1 はあくまで担任ですが、アクティビティの内容や進め方は私が主導します。私が all English で demonstration や reaction をし、担任が日本語でフォローするという形です。担任とは、「来週は Lesson2 の第 3 時なので、めあてはこれにします」という程度の打合せしかありませんが、年度初めには、学校を訪問し、教材 (Hi, Friends! の CD やデジタル教材、ポスター) の確認と、担任とどう授業にするのかを打合せします。季節の行事 (ハロウィンやクリスマスなど) に関する授業を依頼されることもあります。毎回授業開始の 30 分前には出勤し、職員室でワークシートを印刷したり、CD を用意したりします。授業終了後には、児童の Review sheet の感想や自己評価を確認します。

授業以外の時間は児童と日本語でたくさん話をするようにしているので、給食も各クラスに入って児童と一緒に食べます。話をすると、授業中は積極的でない児童でも英語に興味があることがわかったり、どんな活動がそのクラスに受け入れやすいのかなどがわかったりします。ALT は児童にとって外国人で英語を話すのが当たり前存在です。英語を使って世界の人とおしゃべりできる日本人、自分も英語を話すことができるようになるかもしれない、という身近な存在として感じてもらえると思います。児童の「外国語楽しい」という一言が励みになります。

*J-SHINE 通信 Web ページ

この 2018 年 1 月号をはじめ、過去に発行した J-SHINE 通信はすべて J-SHINE の Web サイトから配信しています。

こちらからご覧ください。

<http://www.j-shine.org/tsuushin.html>

今月の花 木瓜



◆今後の展望、課題、目標

現在 36 歳ですが、昨年度から新しい挑戦として小学校教員免許取得のために通信制の大学で学んでいます。授業に入ったときに児童と担任の関わりを見ていて、自分も 365 日児童と過ごしてみたいと感じたのがきっかけです。家事、育児、仕事をしながらの挑戦なのでとても大変ですが、一生の仕事として小学校の教員になりたいと目指しています。小学校で 4 週間の教育実習をした際には、全教科の授業実習を経験しました。支援員としての経験が生かせることもありましたが、教師と支援員の立場の違いを強く感じました。支援員では手を出すことのできないことも多くあり、やはり自分は教師になりたいという気持ちを強くしました。

私のように小学校で英語教育に関わりたいと思っている方も多いと思いますが、待っているだけでは何も始まりません。アンテナを高く伸ばし、さまざまなことに挑戦してみてください。読み聞かせボランティアや学習支援サポーターなど、地域の人材を募集していることは多いです。

さらに、私が支援員としての仕事で強く感じるのは、コミュニケーション能力の必要性です。児童にとっては支援員も先生と同じです。先生方とはもちろん、児童との関わり方も重要になります。一定以上の英語力は必要ですが、それに加えて、コミュニケーション能力を伸ばしていけるよう自分を磨いていってほしいと思います。

